

5 令和4年度の主な食料・農林水産業・農山村施策

農林漁業者の経営力向上や農林水産業の競争力・持続性の強化を図るとともに、多面的機能の発揮を促進し、農林水産物を安定供給するための主な取組をご紹介します。

農林漁業者の経営能力を生かした、競争力の高い農林水産業の実現

新規就農者の確保・育成及び定着を図るとともに女性農業者や高齢農業者の活躍や企業などの参入を促し、地域農業を支える多様な担い手を育成します。

主な事業 明日の農業担い手育成塾推進事業

就農相談窓口の設置と「明日の農業担い手育成塾」の運営支援等により、農家子弟を含めた新規就農希望者の円滑な就農を促進し、多様な担い手の確保育成を図ります。



※担い手入門研修とは

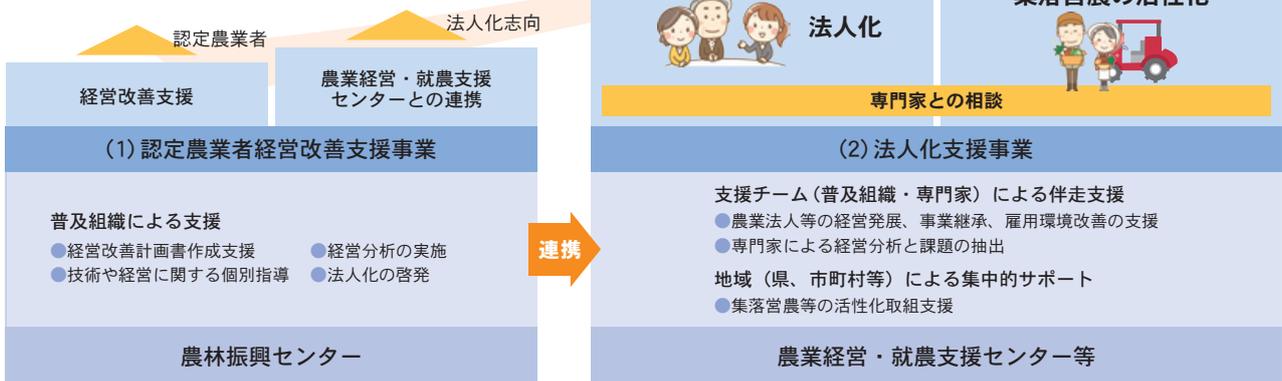
明日の農業担い手育成塾に入塾するためには、農業大学校等における一定程度の基礎研修が必要となっています。県ではその基礎研修の一つとして、令和3年度から「担い手入門研修」を設置・運営しています。「明日の農業担い手育成塾」への新たなステップを整備することで、さらなる担い手の確保育成を図ります。

担い手入門研修を活用した新規就農までのフロー（一例）



主な事業 農業経営法人化推進事業

地域農業の担い手である認定農業者などの経営発展を支援し、農業経営の法人化を推進します。



地域の特性に応じた、収益性が高く安定的な農林漁業経営に立脚する、持続性の高い農林水産業の実現

収益性が高く安定的な農林漁業経営に資するよう、農地の生産基盤や森林整備などに取り組みます。また、農林水産業に係る様々なリスクへの対応を図るとともに、デジタル技術を活用したスマート農林水産業の推進や本県の自然条件に適した新技術の開発・普及により、イノベーションを促進し生産性を向上させます。

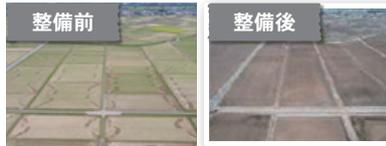
1 生産基盤

主な事業 農業生産を支える基盤の整備

農地の大区画化等により、農業生産性の向上と営農条件の改善を図り、農地の利用調整による経営規模の拡大や高収益を目指す農業経営体の育成を促進します。また、農業水利施設の整備により、用水不足や排水不良を解消するとともに、防災・減災上、重要な農業用ため池の耐震化と計画的な保全管理を推進し、自然災害の未然防止を図ります。

担い手を育む農地の整備

- =ほ場整備事業=
●農地の大区画化
●耕作道路を拡幅



農業水利施設の整備

- =農地防災事業=
●老朽化した農業用ため池等の整備



主な事業 水源地域の森づくり事業

水源地域において、手入れの遅れやシカの被害等により荒廃し緊急に整備が必要となっている森林を対象として、針広混交林の造成や荒廃森林の再生を行い、水源涵養機能などの多面的機能の維持向上やスギ花粉の削減、景観向上を図ります。



林内が暗くなったため下草が減り土壌流出のおそれがある森林

整備され針広混交林化しつつある森林

2 リスク対応

主な事業 特定家畜伝染病防疫体制強化事業

アフリカ豚熱や高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の予防対策や、迅速かつ的確な防疫対策に向けた危機管理体制の強化により、発生予防及びまん延防止を図ります。

家畜衛生情報共有システムの構築

- 農家情報等の管理・更新
- 畜舎のレイアウトや農場内の作業動線など、防疫作業に必要な情報を収集・更新
- 飼養衛生管理基準の遵守状況や野生鳥獣侵入リスク調査結果を踏まえた農場指導

家畜伝染病の発生予防・まん延防止



3 イノベーション

主な事業 狭山茶 DX 推進研究事業

茶園管理の効率化や茶葉の品質向上等を図るため、生育管理データ等の収集や解析に ICT を活用し、新たな茶生産の実現に向けた試験研究を実施する。

狭山茶 DX 推進会議

データの共有・検証、新たな課題の提案・実証

令和 4 年度	5 年度	～ 8 年度
狭山茶産地における ICT 活用実証試験 ■茶業研究所でのデータ収集・検証 ■茶業研究所が収集・解析したデータの提供	■広域でのデータ収集・検証	■地域への普及

①環境センサデータによる適正管理と作業効率化の検討

- 温湿度、風向風速、雨量、土壌データで適正な肥培管理
- 葉の乾湿状態を把握し適時収穫

②画像解析による害虫発生予測と適期防除



- 画像による生育状況確認

③防霜ファンの遠隔操作による労力軽減と消費電力低減

- 防霜ファンの遠隔操作・効率的稼働
- 画像・環境データ解析で病害虫適期防除

地域全体の生産性向上

主な事業

スマート農業の推進

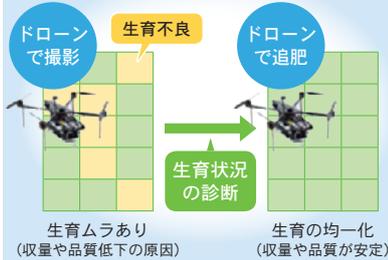
農業従事者が減少・高齢化する中、作業の「省力化」「効率化」による規模拡大や経営の高度化、これまで経験や勘として培われてきた技術・知識の「見える化」を通じて、先端的な情報通信技術等を活用したスマート農業を促進します。

研究開発

スマート農業に関する研究

- ドローンを活用した水稲や麦の生育障害監視技術の開発
- 施設キュウリ生産におけるAIの活用による生育・収量予測技術の開発

ドローンを用いた高温障害等の軽減



AIによるキュウリの収量予測



技術実証

スマート農業普及推進事業

- スマート農業普及推進研究会の開催
- モデル経営体によるスマート農業技術の実証



自動水管理システム 自動運転田植機

果樹産地再生支援事業のうち未来型果樹園実証展示事業

- 省力化生産モデルの実証試験地を整備
- 企業と連携した先端技術の実証



省力樹形

普及実装

施設園芸先端サポート技術導入事業

- 労働生産性の改善に必要な機械や施設の導入支援
- 生産・経営管理技術の確立・普及



統合環境制御装置及び連動する機器 (Co2 施用システム)



環境モニタリング装置

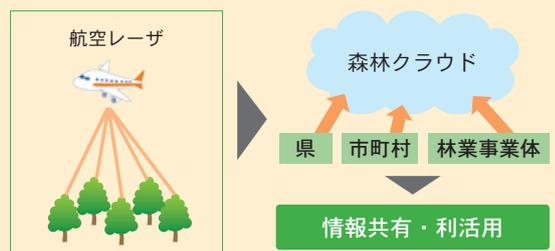
主な事業

スマート林業の推進

林業従事者数が減少し、木材価格が低迷する中で、林業を維持・発展させていくために、ICT 技術を活用し、森林資源情報の精度の向上や素材生産の省力化を進め、生産性の向上を図ります。

県による森林資源調査の実施

- 航空レーザを活用した資源調査の実施
- 調査等で得られたデータを共有する森林クラウドシステムを運用



林業事業者の取組支援

- 地上レーザ等の導入を支援し、高精度資源量管理を推進
- 丸太仕分け作業及び丸太自動認識システム等の導入を支援し、省力化を推進



地上レーザ

ICTの活用



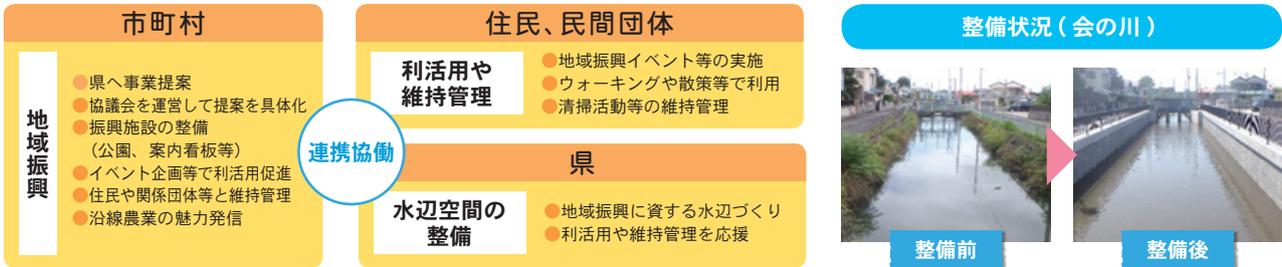
複数の丸太の径を瞬時に読み取り材積を測定

多面的機能が発揮される農林水産業及び農山村の実現

農業用水周辺の水辺の整備を通じて、良好な景観の形成、親水空間の提供など、多面的機能の発揮を図ります。また、都市部においても森林への理解を醸成し、都市と山村の連携による森づくりを促進します。

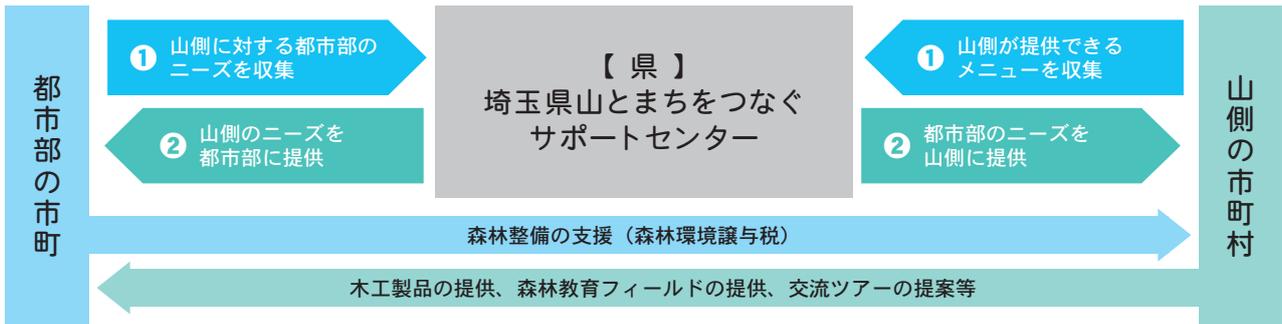
主な事業 水辺周辺活用事業（農業用水）

農業生産のために維持されてきた身近な水辺を対象として、県などが水路や遊歩道の整備を実施します。さらに市町村や地域住民と連携し、整備した水辺空間を活用したイベントの実施や周辺マップ作成等を通じて、都市近郊農業の魅力を発信します。



主な事業 森がつなぐ山とまちの未来事業

森林整備や木材利用を進めて森林の公益的機能の維持・発揮をより一層図ることを目的として、県が「埼玉県山とまちをつなぐサポートセンター」を設置し、都市部の市町と山側の市町村の連携した取組の促進を図ります。



需要に対応し、消費者に信頼される良質かつ安全な農林水産物を安定供給できる農林水産業の実現

県産農産物の安心・安全向上に取り組めます。また、農業の環境負荷低減や、気候変動への対応を図るための環境を整備するとともに、県産農産物のブランド力の強化・定着を通じて需要拡大を図ります。

主な事業 S-GAP加速化推進事業

食品安全・労働安全・環境保全の取組をわかりやすく解説した県独自のGAP（S-GAP）の普及拡大を加速化させ、農場管理の安全性と信頼性を一層向上させることで、安全・安心な農産物を広く県民に供給します。また、流通・加工業者や消費者等のS-GAPに対する認知度の向上を図ります。



主な事業 有機の輪スタートアップ事業

有機農業生産者と消費者・実需者等がオンライン上で交流できる場の新設や、先進的な取組を行う地区への支援などを行い、生産者が有機農業を実践できる環境をつくります。



主な事業 埼玉ブランド農産物推進事業

県が育成した品種を中心にブランド力の強化を図るとともに、産地による県産農産物の販売促進に係る取組を支援し、実需者や消費者から広く認知されることで、県産農産物の需要を拡大します。



主な事業 県産米競争力強化プロジェクト推進事業

主食用米の需要が減少する中で、県産米の販売促進や消費拡大を支援していくことで、競争力強化を図り、県産米全体の評価を向上させます。



主な事業 シャインと輝く果樹産地育成事業

温暖化に適応した収益性の高い果樹産地を育成するため、高品質なシャインマスカット生産に必要な雨よけ施設栽培を農家が共同で導入するための取組を支援します。

